

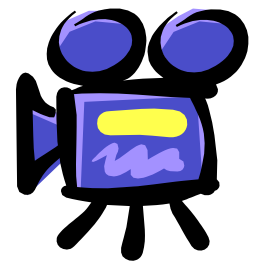
## 今、はやりの「フィルム・コミッション」に、三浦市も取り組んでいます

フ

フィルム・コミッションとは、「映画、テレビドラマ、CMなどのロケーションを誘致したり、実際のロケをスムーズに進めるための非営利な公的機関です。」とされています(全国フィルム・コミッション連絡協議会ホームページより)。三浦市では平成16年4月1日の組織改正で、シティセールスを担当する「営業開発課」を新設します。フィルム・コミッションは、その重要な業務メニューのひとつです。

平

成16年度からは営業開発課が取り組む予定ですが、平成15年度途中から「政策経営室」の職員2名が中心となりフィルム・コミッション活動を試行的に実践してきました。三浦市には、海を中心とした自然景観、古き良き“昭和”を感じさせる町並み、漁港、商店街、神社・仏閣などロケ地候補となりうるスポットがたくさんあります。さらに、東京から日帰り可能なこともあり、これまでも多くの作品の舞台となってきました。



は

じめは、制作スタッフの方からの問い合わせに電話で回答する程度でしたが、今回からは、ロケ地の案内、折衝などにも同行し、一步踏み込んだ形での支援を実行しています。制作サイドの意向を重視しながらも、三浦の売り込みを主眼に置き活動を進めています。放映では、市内の見慣れた風景がテレビドラマのバックに写り、クレジットの撮影協力の箇所に「三浦市」と表示がなされたわけです。いくつかのロケ支援を実践後、ありがたいことに何本もの相談を受けるまでになってきました。支援した制作会社から紹介されたとの声も多くあります。今後も継続して三浦市内が「ロケ地」として選択され、全国へ情報発信されることが目標です。



P

R効果のめざすものは、被写体となった三浦に市外の方々の来てもらうことです。観光客の増加は、地元への経済波及効果につながります。もちろん、撮影隊による食事、宿泊などの直接的な消費拡大も見逃せない経済効果です。約半年間で9件の撮影協力をしましたが、その結果、約400万円の経済効果がありました。少額ですが、市内にマネーフローが起きたことは事実です。

三

浦市が考えるフィルムコミッションは、市民と行政の協働による「みうらフィルムコミッション」です。映画製作に携わる方々(お金を落としていってくださる方々)を、市をあげて、おもてなししたいと思います。どこの自治体も力を入れようとしているフィルムコミッション。三浦市ならではの差別化が必要です。今はまだ、その差別化方針をはっきりと持つには至っていませんが、これから智恵を出して、他の自治体にはない“まちと業界が共栄できる”フィルムコミッションへと進化させていきたいと考えています。